

—学校教育目標—

豊かな心をもち

自ら学ぶたくましい子

(1)よく考えねばり強く学ぶ子

(2)心豊かで思いやりのある子

(3)すすんで体をきたえる元気な子

学校便り

第22号

仲井真っ子

H30年7月4日(水)

那覇市立

仲井真小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

TEL 917-3330

表彰朝会(スポーツ面)!



4日(水)朝会にて、水泳と空手で活躍した仲井真っ子を表彰しました。『大城芽泉(おおしろめい)さん』、『大城康聖(おおしろこうせい)さん』の2人です。芽泉さんは、「第50回春季短水路年令別選手権水泳大会」女子200m個人で第1位、50mで第3位。そして第41回全国JOC夏季沖縄県予選大会200mで第1位、50m自由形・平泳ぎで第3位の活躍でした。康聖さんは、沖縄県少年少女空手道選手権大会組み手の部で優勝、第5回全九州少年少女空手道選手権大会で5位の活躍がありました。あらためておめでとうございます。

お話朝会(判断する力!)

「よく考えねばり強く学ぶ子」本校教育目標

4日(水)表彰後、イソップ物語「ロバを売る親子」のお話をしました。この寓話には、方法の選択を誤るとすべてが水泡に帰すという教訓があります。あらすじをお話します。昔、ある親子がロバを売りに町に出かけました。その様子を見た女の人に、「せっかくロバを連れているのだから乗ればいいのに」と言われたので、子どもをロバに乗せて歩いていきました。しばらく歩くと今度はおとしよりが、「親を歩かせるとはなんて親不孝な子どもだ」と言うので、子どもを下ろして親がロバに乗って歩いていきました。また、しばらく歩くと、子どもづれの女の人から、「子どもを歩かせて親だけが乗るなんて、なんてひどい親だ。一緒に乗ればいいのに」と言われたので、今度は二人でロバに乗っていきました。さらに行くと、また別の人が「小さなロバに二人が乗るなんてかわいそう」と言うので、それもそうだと思い、親子は、ロバを狩の獲物を運ぶように一本の棒に両足をくくりつけて、担いで歩きました。やっと町に近付き、橋を渡ろうとしたところ、担がれたロバが苦しがつて暴れ出し、川に落ちて死んでしまいました。

結局親子は、苦労しただけで一文の利益も得られませんでした。さて、皆さんはこの親子をどう思いますか。仲井真っ子達には、「判断する力」をつけてほしいです。それで次のように話しました。この親子はロバを売るために町へ歩いていく間に、5つの方法でロバを運びます。やさしい親子だと思いますが、残念なことに、自分の頭で考えずに、人に言われるがままに次々と方法を変えていきます。その結果、ロバは川に落ちてしまい、ロバを売るという目的は達成できませんでした。皆さんも目的を決めて、それを実行していく間に、たくさんの判断を迫られることがあります。

教室の黒板の上に学校の教育目標が掛けられています。「よく考え、ねばり強く学ぶ子」ってあります。困ったら、人の話に耳を傾けることは大事なことです。その時、しっかりと自分の頭で考えて判断しなくてははいけません。成功するには「チャンス」に恵まれるだけではなく、正しい「チョイス」、つまり「選択をする」ことがとても大事なことになります。